

小中学校の教室に エアコンの設置を

大瀧(和) 議員 近年の異常な夏

の暑さ対策として、学校に水筒を持参させたり、中学校であれば、体操着の半そで、短パンで授業を受けさせるなどの対策をしている。夏の教室の温度は、真岡市内小学校で平成二十二年九月上旬に実測したデータがあるが、三十五度を超えることはよくあり、朝の会の時間には三十六度、給食時間前には三十七度になることもよくあった。また、近年の耐震工事で太い柱ができて、風通しが悪くなったケースもあると聞く。小中学校では、熱中症の症状で保健室に来る児童生徒が急増している。熱中症対策やよりよい教育環境のため、小中学校の普通教室にエアコンの設置が必要であると考えがどうか。

市長 普通教室へのエアコン設置については、近年の地球温暖化の影響によって、真夏日が多くなっている状況や子ども議会における児童生徒からの強い要望、県内他市の取組み、市内高等学校における設置状況などを勘案すると、子

どもたちの健康的で快適な環境を保持するために前向きに検討する時期に来ているものと考えている。設置の時期については、現在進めている校舎の耐震化工事との兼ね合いや国庫補助事業を導入する場合の採択の時期、大震災の影響による電力不足の問題など、実施する上で不確定な要素があるので、それらも考慮しながら年次計画を立てて導入する考えを持っている。

竜巻災害への対応策 農業施設等の被害への支援は

大瀧(和) 議員 竜巻によって被害を受けた農業施設等関連のものとして、①納屋、②ハウス園芸施設、③かわら、ガラス等が飛散した水田、畑に対する支援策を伺いたい。

市長 ①国は五月二十二日に今回の竜巻被害について、被災農業者向け経営体育成支援事業を適用することとし、農業経営に必要な納屋等に対し、原形に復旧する経費の十分の三以内で補助することになった。市としても、早急な農業



竜巻の被害を受けた西田井地区

生産基盤の復旧が必要であることから十分の一を補助することとした。

②被害を受けたハウスの撤去費用として、被害程度により県が農業災害対策特別措置条例を適用したことから、県と市がそれぞれ二分の一で全額を補助する。ハウスの施設復旧費については、国十分の三、県十分の三、市十分の一の補助をすることにより、合計十分の七を補助する。

③かわら、ガラス等が飛散した水田、畑に対する支援についてであるが、面積は約三十四ヘクタールと推測しており、このうち破片が表面に見えているものについては、所有者やボランティア等により回収されているものと思われる。

地域防災計画に 女性の意見・視点反映を

荒川議員 防災対策には女性の視点が大切である。災害が発生すると、子育て、介護、妊娠中など多様な生活環境にある女性は、男性以上に困難な状況におかれ、災害時には女性の役割が大きい。

防災担当部局と男女共同参画社会担当部局との連携強化、さらには、地域防災計画に女性の意見を反映させる取組みが必要であると考えがどうか。

市長 平成二十四年三月に、平成二十四年度から二十八年度までの五箇年の「第二次真岡市男女共同参画社会づくり計画」を策定した。その中で、誰もが安心して、

しかし、竜巻が発生した時期が田植えの時期と重なったため、土の中に埋もれてしまったものやガラス片のように小さいものについては、依然として回収できないのが現状である。これらの回収に要する雇用経費等についての支援を国、県に要望しているところである。

いきいきと暮らせるための取組みとして、「男女共同参画の視点に立った防災計画の推進」として、女性の視点に配慮した防災対策に努めている。また、推進体制は、副市長を委員長とし、六部、十四課で構成する「真岡市男女共同参画社会づくり計画推進会議」を設置し、総合的な連絡調整を図っている。

地域防災計画については、本年度、県の地域防災計画の見直しに準じて、真岡市地域防災計画の見直しを予定している。災害時における地域での女性の役割は、大変、重要なものがあると思われるので、今後、防災座談会等において女性の意見を十分に聴取し、地域防災計画の見直しについて、積極的に女性の意見を反映させたいと考えている。

